# みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol. 166
東北森林管理局

Recreation Forests of JAPAN

八甲田山の樹氷

## 特集
## 平成30年東北森林管理局長 年頭挨拶

CONTENTS

■美しい森林づくり
地域の森林を守り育てる活動について
～ボランティア活動による自然環境保全活動～ ……………………………… [山形森林管理署]
■我が署の名所
七座山　ななくらやまの紹介 ………… [米代西部森林管理署]

特集
Special Feature Article

# 平成30年 東北森林管理局長 年頭挨拶

東北森林管理局長
小島　孝文

新しい年を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃より東北森林管理局の業務運営につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、秋田県南地域を中心に大雨による甚大な災害が発生した年でありました。東北森林管理局といたしましては、被災地の早期復旧に取り組むとともに、災害に強い森林づくりを進め、緑の国土強靱化に一層取り組んで参ります。

東北森林管理局管内の国土の31%を占める国有林は、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、木材等の林産物供給などの多面的な機能を有しており、国民生活に様々な恩恵をもたらす「緑の社会資本」であり、その役割はとても重要となっています。

こうした中で、国有林野事業においては、森林の持つ多面的な機能を高度に発揮するため、公益重視の管理経営の推進、森林・林業の再生や地域の活性化など、我々の持つ組織・技術力その他資源を活用して、森林の整備・保全に取り組んでいるところです。

さらに、先人たちの努力によって造り上げられてきた人工林資源が充実し、本格的な利用期を迎える中で、豊富な森林資源の循環利用が重要となっていますが、新たな木材需要の創出、国産材の安定供給を図っていくため、民有林と連携した施業の推進や林業の低コスト化につながる施業モデルの展開、木材の新規用途開発のための試験協力、多様で活力ある森林づくり等を進めているところです。

そして、林業の成長産業化の実現と、森林資源を活用した地域の活性化を通じ、地方創生に貢献すべく職員一同取り組んで参ります。

一方、東日本大震災からの復旧・復興については、昨年末で海岸防災林復旧事業の進捗率が74%となっており、引き続き、治山事業による生育基盤造成工と植栽工を実施し海岸防災林再生に向けた取組を行うとともに、土木用・住宅資材の需要増大に対応した木材の安定供給を行うなど、復興のさらなる加速化に向けて全力を挙げて取り組んで参ります。

東北森林管理局は、地域に根ざした組織として、これまで以上に国民の財産である国有林の管理経営を充実させ、職員一人一人が技術力を高めて、森林・林業・木材産業の発展に貢献できる取り組みを進めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、新年に当たってのご挨拶とさせていただきます。

# 年頭所感

東北森林管理局次長・青森事務所長
吉野　示右

平成30年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

皆様方には、常日頃より、森林林業行政、とりわけ国有林の業務運営に、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年も引き続きよろしくお願いいたします。

昨年は、秋田県南地域を中心に大雨による甚大な災害が発生した年でありました。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。今後、被災地の早期復旧に取り組むとともに、災害に強い森林づくりを進め、緑の国土強靱化に取り組んで参ります。

さて、「森林・林業基本計画」において、原木の安定供給体制の構築が施策の基本的な方針の一つとなっています。このことを通じ、林業及び木材産業を安定的に成長発展させ、山村等における就業機会の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換する林業・木材産業の成長産業化を早期に実現することが極めて重要となっています。

東北森林管理局としましても、木材の安定供給のためのシステム販売を推進するほか、伐採と植栽を同時に契約する一貫作業システム、コンテナ苗の活用、列状間伐の推進等低コスト作業システムの導入に努めているところです。

東北地方は、近年、ＬＶＬや集成材・合板等の大規模木材加工場や木質バイオマス活用施設が増加しており、国有林としても可能な限りこれらに対応し、森林・林業基本計画が描く世界の実現に努めて参りたいと考えています。

また、地域特有の取組として青森ヒバ林の復元に向けた取組があります。かつてヒバ林が成林していた地域にスギやカラマツを植栽しましたが、そういう地域の中にはヒバの稚幼樹が元気に生育しているところがあります。そういう地域において、主に天然力を活用してスギやカラマツ等の人工林からヒバ林への誘導に向けた取組を推進しております。昨年は「青森ヒバ林復元プロジェクト連携推進協議会」を設立したほか、復元エリアでは人工林の伐採、更新に着手したところです。青森ヒバ林の復元まで長期の取組となりますが、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

さらに、森林の多様な整備・保全として、松食い虫の北上を阻止するため、青森県西部（深浦町）において、主伐期に達したアカマツ林を対象に樹種転換に取り組んでいます。近年増加傾向にあるニホンジカについては、三陸中部署及び宮城北部署で積極的に駆除するとともに、世界自然遺産である白神山地でも目撃例が増加していることから、センサーカメラによる監視のほか新たに小型囲い罠を設置し、捕獲を試みています。林業の低コスト化に向けて、しっかりとニホンジカ対策に取り組む必要があります。

新たな課題もありますが、大規模木材加工施設の増加や木質バイオマス活用施設の増加、さらには、森林環境税の創設に関する動きなど、今、森林・林業には明るい兆しを感じられる時代になりつつあります。先人から引き継いだ大切な森林をこれからも守り、育て、活用し、日本の森林・林業の活性化につなげていきたいと考えています。

青森ヒバ林

最後になりますが、皆様にとって、本年がより良い年となりますよう祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。

# 今年度の活動を振り返って

## 【朝日庄内森林生態系保全センター】

当センターは、朝日山地の保全業務を中心に、庄内海岸林の森林整備や森林環境教育を行っています。

朝日山地森林生態系保護地域は山形県と新潟県に跨がる約7万haが指定され、その内、山形県の約4万8千haが保全対象となっています。

## 新たな取組

今年度は、朝日山地森林生態系保全地域の説明看板の再整備と登山道が不明瞭な箇所へロープを設置して誘導する取組を新たに実施しました。

○保護林の看板整備

朝日山地森林生態系保護区域の取組説明と区域を明示するため、登山道の入口（駐車場付近）に説明看板を設置していますが、経年設置に伴い支柱の腐朽、汚れや傾斜が進んでいるため、痛みが著しい看板を撤去し、新たに仮設の看板を設置しました。

また、区域表示看板（保存地区、保全利用地区）の設置場所が正しいのかGPSで確認しながらの設置及びメンテナンスを行いました。

特に保存地区は登山道入口から4～5時間の場所にあることから、体力的に大変な業務になります。

古い看板撤去



新たな看板

○林地の保全

高山帯の稜線付近の風衝地や礫が多い箇所は、登山道が不明瞭なため、登山道を外れてしまう箇所があり、その場所を放置すると登山道が広がり新たに植生が荒廃する恐れがあります。昨年の合同パトロールで指摘があった大鳥池から以東岳へ至るオツボ峰ルートの一部にロープを設置しました。現地は、登山口から約6時間要する場所であることから、事前に大鳥避難小屋へ荷揚げを行い、後日、避難小屋に前泊して早朝から作業を行いましたが、急登を重い資材を上げるのが大変でした。

ロープ設置

## 森林の適正な管理

○スノーモービルの走行規制

月山山麓では、毎年春分の日前後から5月連休までスノーモービルが乗り入れており、隣接する朝日山地森林生態系保護地域への乗り入れ規制や樹木の損傷防止等のパトロールを関係団体等と連携して実施しています。今シーズンは、走行初日の3月19日（日）に森林生態系保護地域内への乗り入れ自粛要請を行い、3月25日（土）、4月11日（火）及び4月28日（金）に環境省、スノーモービル愛好団体（※）、局、関係署と合同でパトロールを実施しました。パトロールの結果、走行による樹木の幹や枝の損傷が一部で確認されたことから、テープ表示による注意喚起や愛好者団体へ指導を行いました。

※月山山麓では、スノーモービル愛好者団体が中心となって作成した自主ルール「月山特別ルール」によって、入山期間や入山台数、乗り入れ箇所等が決められています。

損傷した枝にマーキング

○朝日山地合同パトロール

朝日山地の保全を目的とした合同パトロールを9月13日（水）渓流コース（朝日俣沢）、9月23日（土）山岳コース（大鳥池、御影森山、葉山）に巡視員、環境省、局、関係署の協力を得て実施しました。渓流コースのパトロールの結果、禁漁区域に釣り人の痕跡やゴミの放置は確認できませんでしたが、後日、モニタリング調査会社から踏入れた形跡が報告されました。

山岳コースのパトロールでは、ゴミ投棄や高山植物の盗掘・踏み荒らしの確認、登山道の規制ロープの点検、保護地域の表示看板の整備、登山者へマナーガイドの配布を行いました。

今回のパトロールでは、登山を規制している箇所への踏入れが認められたことから、今後も継続した対応を行うこととしています。

マナーのPR

## 人工林から天然生林への誘導

朝日山地内に含まれる人工林については、将来は天然林に導くこととされています。そのため、人工林を天然生林へ誘導するにあたり、どのような更新補助作業等が効果的であるか検証するため、技術開発課題として取り組んでいます。今年度は6月13日（火）、天然生林への誘導手法を模索するため設置した調査プロット（20m×20m×2箇所）内の林床植生調査を山形大学農学部准教授及び学生の協力を得て実施しました。7月13日（木）には、2箇所のプロットにおいて、地元鶴岡市立あさひ小学校5年生による更新補助作業（下草刈り、つる切り）を実施しました。

また、個々の人工林（79箇所）について、搬出路の有無や広葉樹の侵入状況の調査を行い、今後の

林況調査

森林計画へ反映するよう森林管理局・森林管理署と検討を行っています。

## 保全作業（植生保護）の取組

○登山道のショートカット規制

登山道のつづら折り箇所において、ルートを外れてショートカットする登山者がいるため山腹が荒廃している箇所があります。そのつづら折り箇所にロープを設置して歩行を規制しています。しかし、点検の都度、踏み入れた形跡があることから、今後も辛抱強く正規のルートを歩いていただくよう、PRと点検を行っていきます。

登山道表示

## 森林環境教育の取組

○朝日自然塾

朝日山地及びその周辺地域において、小中学生の親子及び関心を持つ一般者等を対象に貴重な自然や森林の恩恵を受けている人間社会の一員として、森林や自然の働きを体感し自然との付き合い方を学ぶ体験活動型森林環境教育及びボランティア森林整備活動を行っています。

今年は、

第1回：7月8日（土）「ハッチョウトンボ観察&大井沢で一日昆虫博士」

第2回：7月14日（金）「みんなで歩こうタキタロウへの道」

第3回：7月22日（土）「プロが教えるイワナ釣り」

第4回：3月10日（土）「かんじきトレッキング&月山メノウでアクセサリーづくり」（予定）の4回計画しました。

イワナ釣り

プログラムの内容、実施時期等の工夫を重ねながら多くの方に参加していただけるよう取り組みました。

○みどりの保育園

西荒瀬保育園（酒田市）は、庄内海岸林（国有林）に隣接しているため、庄内森林管理署と「遊々の森」の協定を締結し、その海岸林を利用した森林環境教育を年間13回実施しています。その内センターでは、きのこの駒打ち（4月27日（木））、クロマツ探険隊I（5月11日（木））、松ぼっくりのツリー作り（12月7日（木））を3回実施しました。

きのこ駒打ち

## 海岸林の森林整備等

○森林整備の指導

庄内海岸林は、山形県の北西部、日本海に面した位置にあり長さ33㎞、幅1.5㎞～3.0㎞、総面積2500haと広大な面積を有している松林です。庄内海岸林は、日本海の強風による飛砂の影響を防ぐ役割を担っています。

松林を保全するため、行政機関やNPO団体が海岸林の保全事業を行っています。今年度は、企業による間伐作業（鶴岡市）5月20日（土）や地元の小中学生に森林整備等（遊佐町：10月6日（金）、酒田市：11月20日（月）に作業の指導者として参加しました。

枝払い作業

○ニホンジカ等目撃情報の収集

山形県でも近年ニホンジカやイノシシが目撃されており、その目撃は全県に広がっています。朝日山地に近い場所でも多く目撃されていることから、今年度から巡視員、山岳会、猟友会、渓流釣り協議会等の会員から目撃情報を収集しています。

○外来生物（植物）の確認

人為的な活動等により、本来その生物の有する能力で移動できる範囲を超えて生育又は生息する生物種の確認を行っています。中には、外来生物法によって規定された生物種も朝日山地の保護林内で確認されたことから、今後、環境省等と連携した対応を検討して参ります。

○森林防虫害の確認

マツノクロホシハバチは、かつて北海道で7千ha以上のキタゴヨウ林が丸坊主となり、その半数以上が枯れてしまったとの文献があり、大朝日岳周辺でも平成23年に被害が確認されて以来、大量発生が見られないか監視を続けています。

今年の調査では、食害が大朝日岳の周辺で確認されましたが、大量発生には至っておらず、通常の高山帯における生態系の範囲内と思われました。

ハイマツの食害

## 地域イベント等でPR

森林生態系保全センターの業務を理解して頂くため、林政協議会等の各種会議や地域イベントに参加し取組内容をPRしています。また、取組結果をHPに掲載したり、広報「朝日庄内の風」を発行してPRに努めています。

活動内容を読む来場者

## 地域の森林を守り育てる活動について
## ～ボランティア活動による自然環境保全活動～

山形森林管理署

山形県の蔵王地区において森林ボランティア活動をしている二つの団体をご紹介します。

### ●蔵王緑の騎士団

平成17年5月設立、団員は会社員、農業、公務員などのいろいろな職業の方たちで構成され、蔵王温泉・蔵王坊平地区の森林パトロール、森林の整備や清掃などの活動をしています。また、地元の高校生に森林整備の作業体験による森林教育、地元の公園の緑化整備や蔵王こまくさ分校（旧小学校校舎）の雪おろし等の維持管理など地域のボランティアとしての取り組みをしています。

森林パトロール

蔵王の豊かな自然を守り続ける環境保全活動では、設立時はトラック3台分のゴミを処理しました。しかし、現在の清掃活動においては僅かな量になっております。この長きにわたる保全活動が新聞などのメディアで広まることにより蔵王に対する一般の方の意識を変えたものと思います。家庭粗大ゴミの不法投棄は人目の少ない森林に多く見られますが、本地区においては見られません。

体験林業（きのこ植菌）

森林整備活動のフィールドである民有林の「小倉地区」及び国有林の西蔵王地区「蔵王緑の騎士団の森（遊々の森）」において、春と秋の自然観察会や森林環境整備（刈払い等）を行い、自然とふれあいや森林に親しむ機会と植物の変化などについて学ぶ取り組みを続けています。

公園の緑化整備作業

### ●成沢グリーンフィールド協力隊

平成18年2月設立、蔵王成沢地区内の地域住民が隊員となり、西蔵王二ツ沼地区周辺の森林整備や清掃活動など実施しています。また、地元小学校の児童にきのこ栽培等の体験などの森林教育を実施したり、住民への森林について理解を深める研修等を開催するなどの活動をしています。

地元小学校のきのこ栽培体験

春の山菜まつり・秋のきのこ祭りは、地域の住民が親子で参加する毎年の恒例のイベントであり、森林の機能・役割を認識し、森林に対する地域住民の繋がりを深める活動です。

きのこ祭りの状況

国有林の「二ッ沼湖畔の森（遊々の森）」においては、祭り当日に森林環境整備（刈払い等）を行い、整備された森林の中で住民を対象とした「森林植生研修」を行い森林の役割と機能と恵みについて学ぶ取り組みをしております。

森林環境保全整備

二ッ沼はかんがい用ため池であり、下流域の耕作地の大切な水源地であり、周辺の豊かな森林が水を供給する役割を担っています。緑豊かな自然からの恩恵に感謝し森林の機能を地域住民が理解し、守り育て続けることの大切さを広める取り組みをしております。

森のおはなし Column

# 東北育種場の苗畑管理

森林総合研究所　林木育種センター　東北育種場 遺伝資源管理課　飯野　貴美子

## 1 はじめに

東北育種場では、各県から提出される要望をもとに特定母樹やエリートツリー等のスギ、カラマツ、抵抗性マツの原種を穂木・さし木苗・つぎ木苗で配布するための苗木管理をしています。今回は当場の苗畑で行っている苗木の育成管理についてご紹介します。

## 2 苗畑管理1年の流れ

### 施肥(基肥)

苗畑の土づくりから始まります。雪が解けて地面が見え始める頃、土壌の状態を見て決めた基肥を散布します。

### まきつけ・床替

4月、苗畑がいよいよ本格的に始動します。まき付け床にはスギ、クロマツ、カラマツの3樹種を播種します。また、前年の秋に仮植を行なった1年目と2年目の苗木を苗床に戻す作業(床替)を行います。

### 雑草とり

外作業がしやすいと感じ始める5月、苗畑では雑草がしっかりと生長してきます。雑草は5～9月にかけてハコベ、ナズナ、スベリヒユ、カラスビシャクの順に生え変わります。雑草は苗木よりも生長が早く苗木の生長を阻害する恐れがあるため、その種が落ちる前に雑草を取り除きます。また、雑草の種類によって根の長さや薬剤による処理方法が異なるため、除草方法を見極めることが必要です。

### 間引き

間引きは苗木1つ1つが生長するための空間を確保するために行います。東北育種場では、まきつけ床に方形枠を設置し、本数密度が均一になるように年に3回本数調整を行います(写真1)。

写真1.間引きを行っている様子

### 病虫害対策

病虫害が発生する前に薬剤散布を行うことが必要です。そのためにも、苗木に変化がないか観察することが重要です。早朝、気温が高くなる前に苗畑に行くとヨトウムシが地面からのそのそ出てくる様子が見られます。

### 根切り

スギ、カラマツの2樹種で床替した苗の根切りを1年に3回(7～8月、9月、10月)行います。根切りとは、苗木の根を切る作業です。①細根の発生、②冬の寒さに備えて苗木の生長を抑制することを目的に行います。

### 施肥(追肥)

山に植える苗木の規格(山行き苗)の数値を目標に苗木の生長に合わせて肥料を散布し、苗木の生長をコントロールします。

### 仮植と仮植の下準備

秋、ついに苗畑の店じまいです。苗畑では10月下旬の雪が降る前に仮植を行います。仮植とは冬の寒さから苗木を守るために掘り取り、仮植床に移動させて寝かせる作業です。

また、仮植を行う前には雪腐れを防止するため、苗木に薬剤を散布します。

### 施肥(基肥)

来年の春にまた良い苗木が作れるように完熟した堆肥をたっぷり入れて寝かせ土に馴染ませます。

## 3 工夫点

### よしずを用いてつぎ木苗の養苗を行う

東北育種場では、つぎ木苗の養苗を行う際、よしずを用います(写真2)。養苗によしずを用いる理由は①直射日光から苗木を保護するため、②風通しを良くし蒸れを防止するためです。よしずはつぎ木苗の活着が確認されたのち除去します。

写真2.カラマツを養苗している様子

## 4 おわりに

私は、苗畑管理を初めて3年目になります。苗畑管理は年によって気象条件が異なるため、柔軟に対応することが必要です。柔軟に対応することは難しいですが、毎日、愚直に苗木を観察し続けることが大切なのではないかと感じています。

mini column

# ニホンリスのフィールドサイン

津軽白神森林生態系保全センター　専門官　有本　実

車で林道を走っていると、突如シュタタタッ!と猛スピードで道路を横切り木の幹を駆け上がるニホンリス①。彼らとの出会いはいつも突然かつ一瞬ですが、食痕や足跡であればじっくり観察できるものです。今回は、哺乳類の中でも分かり易いニホンリスのフィールドサインをご紹介します。

松林の中で簡単に見つけられて森林教室の話のネタになるのが、松ぼっくりの食痕です②。鱗片部を剥がして種子を食べた形状がエビフライに似ていて、子ども達に「これは何の仕業でしょう?」とクイズを出すと盛り上がります。オニグルミの食痕③は、大きな樹洞の中や切株の上などで良く見つかります。③の写真で半分に割られているのがリスによるもので、側面に丸い穴が開けられているのはネズミ類の食痕です。食べるのが下手な若いネズミほど開ける穴が大きい、という話もよく使うネタですね･･･

今の時期に雪の積もった林内を散策すると、様々な動物の足跡が見つかります。ニホンリスの足跡は、大小の“ハ”の字を上下逆さに並べたような特徴的な形です④。写真下段の小さな“ハ”が前足、上段のひっくり返った大きな“ハ”が後ろ足で、進行方向は上側になります。これも森林教室では「どっちに進んでいるでしょう?」と良いネタになります。

ニホンリスは冬に備えて地面を浅く掘り、ドングリなどを貯蔵する習性があります。最後に、④を撮影した時に出くわした面白い光景をご紹介しましょう。一箇所にリスの足跡が散乱し地面が掘り返されていて、穴の中心にはオニグルミが一つ⑤。クルミは雪面にガッチリと凍りついていて、びくともしません。『さあ食べよう･･･ん?と、とれない!』と焦るリスの顔を想像して笑ってしまいました。

①ニホンリス

②松ぼっくりの食痕

③オニグルミの食痕

④雪上の足跡

⑤食べようとしたら･･･

# 森林官からの手紙

TOHOKU 2018 SHINRIN KYOKU

## 地域の自慢の国有林であるために

岩手南部森林管理署　森林官（千厩担当区）　齋藤　千明

私の勤務する千厩（せんまや）森林事務所は、岩手県南にある一関市千厩町にあり、宮城県と秋田県に接する東西に細長い一関市の東側を管轄しています。管内の地域は、太平洋側の気候の影響を受けるため、県内では比較的温暖で、農林業や畜産業が盛んです。管内に点在する国有林は、農地や住宅地に近い里山地域にあり、スギ・アカマツ人工林が中心の林況となっています。管内の国有林には、農業や畜産用の水源になっている沢も多く、昔から国有林は「営林署の山」として親しまれてきました。

その中でも、一関市大東町にある「東山松（とうざんまつ）」は地域の自慢のアカマツです。

岩手県産アカマツは長大で材質が良いことで知られ、江戸時代から「南部アカマツ」と呼ばれるようになりました。東山松はその南部アカマツの地域名の一つで、約150年前に成立した天然林です。学術上価値が高く貴重な樹木群であることから、「一関東山松植物群落保護林」として保護・管理されています。直径60㎝以上・樹高25ｍを超える大径木ばかりの林内は、周囲の林から見ても、頭ひとつ抜きんでています。巡視中に地元の方から「東山松はもう見た？立派な山だよ。」、「子供の頃の遊び場だった。」、「薪用の枝集めしたな。」と、たくさんの思い出を伺い、これまでの長い間、地元の方々の協力の下に大切に受け継いできた歴史を感じました。

胸高直径80㎝の東山松と

パラグライダー体験ができる室根山

2015年の農林業センサスによると、一関市は岩手県内一の林業経営体数となっており、積雪も少ないことから冬期間の伐採作業も盛んで、年間を通じ林業に従事することができます。一方で、後継者がいない方や遠方に住む方から森林の管理方法について相談を受けることがありますが、業務対応上できないので、相談先の紹介に留まってしまいます。

このような地域の課題に対して、国有林の立場からどのような支援・協力ができるのか、日々の情報収集はもちろん、地元自治体や林業事業体等と相互に連携できる関係づくりが重要ではないかと思います。

これからも地域の自慢の国有林であるために、森林の魅力を伝えるとともに、身近な森林・林業の課題解決の一助となれるよう努力していきたいと思います。

東山松

天然秋田杉

七座山と米代川

# 我が署の名所

## 七座山　ななくらやまの紹介

（秋田県能代市二ツ井町）

米代西部森林管理署

権現倉・烏帽子倉・蓑倉・芝倉・三本杉倉・大倉・松倉の7つの山が連なることに由来し名付けられた、標高287mと低山で登山道（森林浴ハイキングコース）が整備された七座山を紹介します。

七座山の西側は日本海からの涼風を受け、高山性の植生、東側は天然秋田杉と広葉樹の見事な混交林で、天スギは150～300年、広葉樹は80～180年の林齢となっており、県北の丘陵地帯における自然状態が維持された森林として特筆され自然観察教育林に指定しています。

藩政時代には御直山（おじきやま・藩直轄管理の山）として保護され、当時の家老・渋江政光は、「国の宝は山なり、然れども伐り尽くす時は用に立たず、尽きざる以前に立つべし、山の衰は即ち国の衰なり。」と森林を重要視していました。七座山が御直山とされたのは、米代川のすぐ上にあることから、緊急な木材の要求があった場合、丸太を筏に組み短時間で運搬できるという地の利から選ばれたと言われています。

また、古くから修験道における修行の場とされ、7つの峰が神の座として信仰の対象となっていました。その山中にある法華の岩屋は、上部の壁一面が蜂の巣状になっていて誰しもが神秘を感じざるを得ない景色となっています。

法華の岩屋

登山道は縦横に整備されていて、低山ながら一気に山頂を目指すコースから、ピークを縦走するコースまで多彩なコースを選択することができます。登山口から25分程度で展望台まで登ることもでき、西側に日本海、北側に「きみまち阪」「白神山地」、東側には最盛期に国有林野職員や従業員が200名も働き、東洋一の大貯木場と称された「天神貯木場跡」、そして眼下に米代川という雄大な景色を眺めることができます。

七座山は蛇行する米代川を挟み、明治天皇が東北ご巡幸の際、旅を気遣う皇后の手紙が届いたことから、「きみまち阪」と御賜名され、恋文コンテスト（平成6年から平成15年まで）が開催され、桜や紅葉の名所として知られる「きみまち阪公園」と向かい合っています。

気軽に登れて、歴史を感じ、天然秋田杉に触れあえる「七座山」、ちょっぴりセンチな気分もあじわえる「きみまち阪公園」に、ご家族、ご友人、同僚で一度訪れてみてはいかがですか。勿論、ご夫婦、恋人同士でも・・・・・・・・・

みどりの東北 Vol.166
●発行日／平成30年1月　●発行／東北森林管理局　秋田市中通五丁目9-16　TEL 018(836)2192
●東北森林管理局ホームページもぜひご覧ください　http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/

東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。